

平成28年度 授業改善推進プラン（留意事項）

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等	今年度の評価や修正点
国語	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習や放課後を有効活用して、漢字や言語等の基礎・基本の学習時間を確保する。学校全体で読書活動を活発にし、児童が多くの作品に触れ心情を豊かにするとともに、語彙を獲得する機会をもたせる。同時に、国語への興味・関心を喚起していく。校内研究でも行っている説明的文章の指導を通して、論理的に考える力を育て、読む力や書く力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明的文章の指導の中に言葉を熟考する課題を設定する。(全学年) 大事な言葉に着目する力を身に付ける。(低) 中心となる語や文が分かる。事実と意見、段落相互の関係がわかる。(中) 書き手のもの見方、考え方、感じ方について理解して読む。(高) 読書活動を活発にするために読書時間を設定する。(全学年) 	<ul style="list-style-type: none"> 課題設定を工夫したことにより、言葉にこだわって考えたり、叙述をもとにまとめたりする力を育てることができた。校内研究の資料を整理し、次年度以降も活用できるようにする。(全) 読書時間を設定したり、読んだ本の感想を交流できる工夫をしたりしたことで、読書活動が活発になった。貸し出し冊数は前年度比106%に上がった。個人差があり、自ら本に手を伸ばすことができない児童に対しての手だての工夫が必要である。(全)
社会	<ul style="list-style-type: none"> 問題意識がもてるような導入を工夫する。地図や写真など児童にとって身近な視覚的教材を使用し、学習内容が着実に定着できるようにする。(中) 複数の資料を関連付けて読む課題を設定する。発言内容については、学習内容と関連付けながら肯定的に評価し、発言への意欲を高める雰囲気作りをする。(高) 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が課題を設定し、その理由を意識して取り組めるようにする。地域の様子に関心をもって学習に取り組ませる。(中) 個々に設定した課題を解決するために有効な資料を見つけ、学習のまとめや発表に活用することができるようにする。 作業課題の追究や解決に適した資料の選択や作品化する際の表現のしかたについて、友達の作品の優れた部分を参考にすることができるようにする。(高) 	<ul style="list-style-type: none"> 課題設定の押さえが足りなかった面もあるので、単元の始めにしっかりと課題を押さえて学習に取り組めるようにする。地域の様子に関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができた。新聞やノートに学んだことをまとめる活動を多く行うことで、得た知識をまとめる力が身に付いてきた。(中) 複数の資料から必要なものを選ぶ視点を身に付けることはできたが、読み取りには個人差があった。また、資料からつかんだ内容を新聞作りなどのまとめ発表りに生かす児童は多く見られたが、分りやすく表現する力にはまだ課題が残る。読み取り方や表現方法の習得を図ると共に、視点を広げたり、深めたりする必要がある。(高)
算数	<ul style="list-style-type: none"> 考える時間を設け、言葉・図を用いて表現させる。(低) 習熟度別クラスにおいて、集団に応じた課題を提示したり、個別指導をしたりし、基礎基本の定着を図る。(中) 自力解決と検討場面での手だてを工夫し、思考力を高める。(高) 基礎・基本の習熟のために、演習させる時間を設ける。学期ごとに東京ベシックドリルを活用するとともに、かけ算九九の習熟状況調査を行って実態を把握し、指導に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを絵や図を使って説明することができる。(低) 補充コースでは反復練習によって基礎基本を身に付ける。発展コースでは自分の考えを図や式などを使って説明することができる。(中) 補充コースではつまづきの見られる課題において前学年の内容に戻って習熟する。発展コースでは検討場面において理解を深めていく。(高) 各学期ごとに行う、東京ベシックドリルにおいて診断シートの正答率平均80%を目指すとともに、九九100問計算では一年を通して正答率を高め、計算タイムが短縮できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 考える時間を十分に設けたことで、自分の考えを言葉や絵・図を使って表現することができるようになった。(低) 習熟度別クラスにおいて、各集団にあった課題を提示し、個別指導にあたることができた。各学期ごとにかけ算九九100問計算、東京ベシックドリルを実施し、個別の習熟状況を把握できた。(中・高) 問題を正確に把握して解くこと、図形に関する問題、除法の計算に課題があるため、さらに習熟が必要である。九九はどの学年も1学期より正答率・タイム共に向上しており、個に応じた習熟度別指導の成果と考えられる。学年によっては1分以上も平均時間が短くなった。ベシックドリルはほとんどの学年で前年度より正答率が上がり、平均80%を超える学年もあった。(全)
理科	<ul style="list-style-type: none"> 活動前に、何を調べるための実験や観察かを考えたり、予想を立てて話し合う時間をとる。学んだことが知識として定着するよう繰り返し練習をする。(中) 実験の予想を立てる際には自分の生活体験を想起させ、関連付けられるようにする。結果や考察を自分の力でまとめることができるようノート指導を行う。実験後、教科書や映像資料で理学的な用語等を再確認する。(高) 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然の様子や事象に関心を持ち、観察・実験を通し、意欲的に学習できるようにする。(中) 実験や観察の事象を筋道立てて考え、それを分かりやすく表現する。(高) 	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容や生活体験をもとに実験の予想を立てられる児童が増えたきた。実際に教材を操作したり、触れたりする機会を増やしたことで、実験結果などを的確に捉えられるようになった。(中) 予想をしっかりと立ててから実験・観察に取り組むことができるようになった。実験・観察結果を踏まえ、考察できるようになることが課題であるため、論理立てた考察の指導が必要である。(高)
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみながら音楽の基本的な力が身に付くような音楽遊びや身体表現を取り入れる。(低) 美しい声や美しい音色を表現できるように個別指導を充実させる。(中) 児童の自主的な学びをねらった発達段階に応じた教材を選択する。(高) 	<ul style="list-style-type: none"> 拍感・リズム感・音程感を身に付ける。(低) より良い発声、美しい音色を表現することができる。(中) 自らの思いをもってより良い音楽表現をすることができる。(高) 	<ul style="list-style-type: none"> 拍感・リズム感・音程感はおおむね身に付いたが、個別指導の工夫が必要。(低) 合唱ではより良い発声で表現できるようになったが、合奏は表現するための技能習得にかける時間がやや足りなかった。(中) 児童が意欲をもてるような教材を選択し、より良い表現はできるようになったが、一人一人が思いをもつことには、さらに指導の工夫が必要。(高)
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 準備や導入を丁寧に、学習のめあてを明確に理解させ、一人ひとりに見通しをもたせる。各学年の発達段階を考え、多様な材料や表現方法を提示し児童の制作意欲を高める。自分の発想を大切に表現できるように支援する。材料や道具の安全な使い方を丁寧に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 造形活動の基礎基本を身に付け、表現を楽しむ。(低) 自分の想いを大切に多様な表現活動を展開する。(中) 様々な材料や表現方法を使いながら自分の発想や表現を深める。(高) 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本を重視し楽しみながら活動を展開することができた。(低) 学習のねらいを確認し、自身の想いを大切にしながら多様な表現活動を展開することができた。(中) 多様な材料を使い、自分らしい表現方法で深めることができた。(高)
体育	<ul style="list-style-type: none"> 各領域の運動をバランスよく取り入れるとともに、休み時間の遊びと運動させ、楽しみながら運動に取り組むことができる授業を展開する。(低) 児童が今もっている力で楽しむことができるように工夫し、すすんで取り組むことができる授業を展開する。(中) 各自が自分の力に合っためあてをもち、課題を解決していく授業を展開する。(高) 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な動きを身に付け、楽しく運動に取り組む。(低) 自己の能力に適した課題をもち、すすんで運動に取り組む。(中) 自己の能力に適した課題解決の仕方を工夫して運動に取り組む。(高) 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に指導を重ねてきたことで技能が向上してきた。日常的に運動に取り組むような手だてが必要である。(低) 児童の能力に応じて内容や場を工夫してきたことで、意欲的に学習に取り組む児童が増えた。自己の能力に適しためあてをもって運動に取り組む様子が見られた。(中) 学習カードや資料を活用し、グループでの教え合いができるようになってきた。マラソン等持久力を高める運動に意欲をもって取り組めるようにする手だてが必要である。(高) 長体前屈・シャトルランは、ほとんどの学年で東京都の平均を上回ったが、それ以外の体力テストは平均を下回っているため、全体的な体力の向上が課題として残る。(全)
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 裁縫では、意欲的に取り組める児童が多い。しかし、技能や進捗には個人差が大きいため、児童の能力や実生活に役立つような作品作りに取り組むことで、意欲的に基礎的な裁縫の技術を習得できるようにする。 衣食住などに関する実践的・体験的な活動を授業に取り入れることで、日常生活に必要な基礎的な知識を身につけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的意識をもって取り組めるように、家庭生活に関わる題材にする。 衣食住に関わるような知識を理解し、家庭生活で活用できるような技能を身につけられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだことをもとに、買い物や料理作りなどの家庭生活で生かすことができる題材に取り組み実践できた。 個人差に対応しながら、基礎的な裁縫技術を習得させることができた。
生活科	<ul style="list-style-type: none"> 自然体験や生活経験を増やしていけるように、体験的な活動を多く取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 見学や体験活動を計画・準備し、見通しをもって、楽しみながら活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動を多く取り入れたことで、実生活により興味や関心をもつようになった。1年生では、季節ごとの遊びを楽しむことで季節の移り変わりを感じられるようになった。2年生では計画的に、事前学習に取り組むことで、児童が見通しをもつことができ、意欲もつなってきた。